

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第 38 号

令和2年(2020年)
7月1日 発行



コロナ外出自粛、青・黄・赤で警告（吹田市・太陽の塔）

世界的流行が続く新型コロナウイルスにより店頭からマスクは消え、追ってトイレットペーパーなどの生活必需品の買い占めがおこり、全国一斉の学校休校が要請された。そんな中、四月、緊急事態宣言が出された。

経典に「五濁」という言葉がある。新型コロナウイルスが世にはびこり（劫濁）、感染者への偏見が生まれ（見濁）、マスクの高額転売や、不安や混乱につけ込んだ詐欺などが発生した（煩惱濁）。また自宅待機と言われるなか外出し、マスクをしていない人を見ると批判し、自分は感染しないと思ひ込む（衆生濁）。結果、知らないところで感染が拡大し、人の命を脅かしている（命濁）。

この五濁、いつも身近にあるのに気づくことなく生活していた。確かに経典に説かれているが、この緊急時になって改めて痛感した自分。この仏さまの言葉は決して他人事ではなく私事として受け止めないといけないと感じた。

（寿栄松正顕）

と う ひ が ん 到 彼 岸



よいしょ、よいしょ

妙圓寺 あしな 葦名 あきら 彰

月命日のお参りでの出来事です。

「ごえんさん、ちよつと待ってね。お茶を入れるから」と言って立ちあがるときに、門徒さんが「よいしょ」と、声を漏らされました。そして直ぐに、「嫌や恥ずかしいわ。もう、よいしょって言わんと、よう立てんようになりました」と、大笑い。

その時、ふと思いました。この「よいしょ」という言葉を私たちはいつ覚

えたのでしょうか？「幼いころにヨチヨチ歩きしている私の手を引いてくれた人がいて、危なっかしい足取りの私に『よいしょ、よいしょ』と励ましの声をかけながら歩き方と共にこのかけ声も教えてくれたのではないのでしょうか。そう門徒さんにお話すると、「そういわれるとそうやね。よいしょは恥ずかしい言葉ではなく、有り難い言葉やね」と、おっしゃいました。

お念仏の道

人はこの世に生まれてからすべてのことを人生の師匠として、先輩から習ってきました。

お念仏も同様に幼いときに、お内仏に向かい「ナマンダブー」とお念仏を称えるおじいさんやおばあさんの姿を見よう見まねで覚えたのでしょうか。そうしているうちに、辛い時、悲しい時、また嬉しい時も、毎朝毎夕に仏さまに

向かいお念仏申す先達の面影が教えとなって、知らず知らずのうちに我が身に薫習くんじゅうしたのではないのでしょうか。

私たちの先祖も大昔から疫病や戦を繰り返し、その度、不安と偏見に陥り、デマに惑わされるような生活に苦しみながら日々を送ってきました。

親鸞聖人はそんな拭いたくても拭いきれないものに苦悩する私たちだからこそ「ただ念仏」の教えが大切だといただかれ、私たちに勧められました。

だからこそ今、困難で不安な人生に苦悩する私たちにとって、先達の念仏する後ろ姿が励ましと教えとなり、そのご苦労に対する感謝の思いがお念仏となつて私の口から出てきます。

それこそがお念仏の道を歩むということではないのでしょうか。

(令和2年7月)



如^{によ}是^ぜ我^が聞^{もん}

おばあちゃんの喚び声

浄土真宗本願寺派壽光寺

萼^{はなぶさ}
慶典師^{けいてん}



目に涙を浮かべ「紛れもなく母さんの声、母さんのお念仏の声だ」と言われ、その後、お念仏を大変よろこばれる生活を送られたというお話でした。

お念仏の声

令和元年12月4日、法友会・佛青懇和会合同研修会が開催され、浄土真宗本願寺派壽光寺ご住職である萼慶典師をお迎えして節談説教を聴聞させていただきました。

おばあちゃんと孫

兵庫の山奥に一人暮らしのおばあちゃんがいました。一人息子が結婚し、神戸に住むことになったので、母親と一緒に暮らそうと提案したのでした。

しかしお寺のことや住み慣

れたところを離れたくないという思いから「死ぬまでここで暮らしたい」と村を出ようとされなかったそうです。

そんな頃、孫の結衣ちゃんが誕生します。結衣ちゃんは両親と折に触れてはおばあちゃんの家に行くうちに、一人で何日も泊まりに行くようになります。

ところが結衣ちゃんが小学校三年生の時、おばあちゃんは急死します。満中陰が終わると遺品や仏壇などすべて神戸に引き取られました。

おばあちゃんがいる

ある早朝、結衣ちゃんが両親を起こします。「おばあちゃんがいる!」。一緒に仏間にいくと当然おばあちゃんの姿はありません。

すると結衣ちゃんがお内仏の前に座って「ナマンダブ」とお念仏するとおばあちゃんの声で「ナマンダブ」。お母さんが声のする方に行くと、そこにはおばあちゃんの飼っていた九官鳥がいたのです。

それを見ていたお父さんは

節談説教を聴聞して「仏さんの前に座ったら、手を合わせてナマンダブというんやで」という祖母の声が蘇りました。自らお念仏した人はいません。それぞれに大切なご縁ある人から伝えていただいたはずです。

今、こうして自分自身がお念仏申すことはお念仏を通して祖母の願いに出会い、なによりも阿弥陀さまの願いに遭遇しているのだという思いがしました。

(玉出宗順 記)



叡福寺



野中寺



大聖勝軍寺

大阪には聖徳太子ゆかりの「河内三太子」と呼ばれる三つの寺院があります。まず「上の太子」と呼ばれる南河内郡太子町の叡福寺。ここには、太子のお墓があり、親鸞聖人も比叡山からお参りされたという記録が残っています。次に「中の太子」は蘇我馬子の助力を得て、太子が建立された羽曳野市の野中寺、そして太子が物部守屋との戦いに勝利した地に開基した「下の太子」と呼ばれる八尾市の大聖勝軍寺です。

大阪の太子信仰

大阪の仏教文化を考える時、聖徳太子への信仰を抜きに語ることはできません。太子は「日本の釈迦」と呼ばれるだけでなく、古代から「観音菩薩の化身」と信仰されてきました。太子が

おられたかつての大和国、現在の奈良から大阪の上町台地にある四天王寺へと続く東西のラインに、現在の大阪平野東部に位置する河内国の「河内三太子」がきれいに並んでおり、太子信仰をたどることができます。

聖徳太子と親鸞聖人

親鸞聖人は太子から、出家在家を問わず成り立つ仏道にこそ自らの歩む道があるという励ましをいただきました。

本山では慶讃法会の一環として聖徳太子の1400回忌法要がお勤めされます。慶讃法会をお迎えするにあたって、聖徳太子ゆかりの地を訪ねてみてはいかがでしょうか。

(佐々木太一)

ごえんさんを訪ねて

しょうねんじ

正念寺（大阪市東住吉区）

おさだ

長田

ゆずる

譲 住職



正念寺の開基は不明ですが、御本尊光背の裏書きに1725年頃の元号や法名が記されており、約300年前に建立されたと推測されます。

1886年にご門徒の土地寄進により現在地に本堂を移設。そして、1995年には本堂屋根瓦の葺き替え工事を、2003年には内陣のお洗濯と本堂の大修復を行いました。

住職勤続30年

1985年、先代ご住職が急逝され、滋賀県東近江市（旧蒲生町）の長徳寺より入寺されたご住職。今年で住職勤続30年を迎えられました。

「門徒数が少ないので、たえず門徒さん以外の方もご参加いただけるような寺院運営を心がけてきました」とおっしゃるご住職。

親鸞聖人の足跡を訪ねる参拝バス旅行をはじめ、落語会、コンサートなどを開催。近江米の産地直送販売



本堂内陣

会は、地域の方々が心待ちにされている恒例行事として続いています。

「これらの行事を通して正念寺を知っていただき、聞法会（仏教セミナー）の聴聞にもつなげています」とのことでした。

いろいろな活動を

子どもの頃、両親や祖母から聞いた戦争体験が影響し、「戦争・暴力・差別のない世の中であってほしい」との思いで平和運動に関わり続けてきたご住職。大阪宗教者平和協議会

の事務局長を、創立以来30年間、務められています。

「生かされているのちであることを忘れず、少しでも他のいのちへの慈しみの思いを持ち続けたい」とおっしゃっていました。

また、趣味はテニス、水泳、映画鑑賞。最近は料理にもはまっているとのこと。10年前にユーチューブにアップされた「涅槃図絵解き」は再生回数8400回をこえました。

今後の目標は「入寺1年目から発行し200号を超えた『正念寺だより』を続けていくこと」と「冠婚葬祭が様変わりする中で後継者を育てること」だとお話くださいました。

（隅谷俊紀）

■正念寺（しょうねんじ）

〒546-0003

大阪市東住吉区今川2-8-5

電話 06-6714-3109

Fax 06-6714-3125

大悲トピックス

■新役員紹介

大阪教区の法友会（住職会）、さつき会（坊守会）ならびに佛青懇和会（青年会）の総会
は新型コロナウイルスによる感染拡大の影響
を考慮して中止となりました。書面による承
認の結果、新役員が決定しましたのでご紹介
いたします。（敬称略）

法友会

- ▽会長・佐々木太一（常光寺）
- ▽副会長・寺田宗隆（報恩寺）
- ▽書記・善本和彦（本光寺）
- ▽会計・佐々木雅人（西圓寺）
- ▽監事・道野真弘（超願寺）
- ▽理事・藤澤泰人（唯信寺）

さつき会

- ▽会長・木村愛子（光台寺）
- ▽副会長兼監事・松野千恵子（光念寺）
- ▽書記・白鷺洲愛子（福泉寺）
- ▽会計・渚真理子（安養寺）

佛青懇和会

- ▽会長・門川崇志（浄方寺）
- ▽副会長兼会計・松野正暁（光念寺）
- ▽書記・中井翔隆（最勝寺）
- ▽監事・和田正智（慈光寺）
- ▽監事・脇阪義仁（霊松寺）

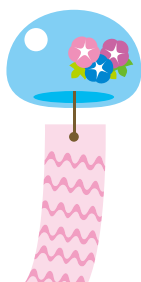
■「大悲の会」後援・布教大会

「大悲の会」では、大阪教区内寺院の聞法
活動の促進、ならびに教区内布教使の研鑽の
ため、各寺院における布教大会開催のコーデ
イネートを行っています。

独自で布教大会を開催するのはなかなか困
難ですが、「大悲の会」が寺院と布教使との
間に入って調整することで双方にとって有意
義な法座が開催されるものと考えています。

開催ご希望の寺院は、大悲の会までお知ら
せください。

（大悲の会一同）



御本山 **近** 用達

株式会社 **川勝法衣店**

フリーダイヤル **0120-075-055**

（〒600-8344）京都市下京区花屋町通油小路東入

電話 (075) **371-0367** (代)

FAX (075) **371-5088**

本山佛光寺 御用達

石の総合メーカー

株式会社 **石留石材**

ホームページ

<http://www.ishitome.co.jp>

本社：京都市中京区堀川御池角

TEL 075-841-1149 FAX 075-812-5826

- 大正三年創業の信頼と実績 -

◇ **石留石材株式会社**

各種石塔・石仏・記念碑

寺社建築石材まで

○ ご相談は下記フリーダイヤルへ 携帯・PHS OK

0120-53-5578

[本社・工場・展示場] 藤井寺市津堂 2 丁目 9 番 29 号

和奏の会 翠笛会

寺院のイベントに邦楽（尺八・
箏）出張演奏いたします。

曲目はリクエストできます。

事務局：阪南市新町 宝林寺

電話 072-472-1414

<http://homepage2.nifty.com/suiteki/>

浜屋は関西最大級の
お仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の
専門店です。

やすらぎの
世界を創る



浜屋

通話料無料・浜屋姫路本社フリーダイヤル

お問い合わせ
お申し込みは

0120-1616-94

●受付時間／午前10時～午後6時30分

人工芝施工・内外装工事・サイン・ディスプレイ・テント



協和産商株式会社

<https://www.kyowa-ss.co.jp/>

本社：大阪市東住吉区今川18-1-14

TEL:06-6702-5722 FAX:06-6702-5732

だいひ 絵日記

4月17日（金）大悲の会編集会議（第38号読み合わせ）（オンライン会議）①

4月29日（水）大悲の会編集会議（第38号読み合わせ）（オンライン会議）

5月14日（木）大悲の会編集会議（第38号読み合わせ）（オンライン会議）

5月25日（月）大悲の会編集会議（第38号読み合わせ）（オンライン会議）

6月25日（木）大悲の会編集会議（第38号発送作業・第39号内容検討）

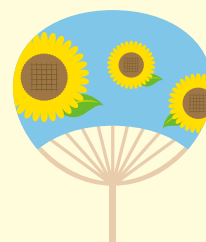
大阪教区総会（中止）

法友会総会（中止）

さつき会総会（中止）

佛青懇和会総会（中止）

（法友会＝住職会、さつき会＝坊守会、佛青懇和会＝青年会）



■**広告募集**（『大悲』発行は広告によって支えられています）
企業・団体・寺院の広告を誌面に掲載させていただきます。
1区画（55 mm × 40 mm）、掲載1回につき5,000円です。

■**定期購読**（ご門徒の皆様方にもお渡しく下さい）
『大悲』の定期購読は、1部につき30円です（送料込）。10部単位でお願いいたします。

ご寺院、お役に立てる商品が、
きっと見つかる情報誌！

寺がある、法が活きる、寺の友社。



株式会社 **寺の友社**

〒611-0002 京都府宇治市木幡平尾54番地の2
TEL 0120-7676-39 FAX 0120-7676-29
<http://www.teratomo.jp>

ご希望の、ご寺院には、無料カタログをお送りします。

協 賛

佛青懇和会

大阪教区の青年会
（会長：門川崇志）

協 賛

さつき会

大阪教区の坊守会
（会長：木村愛子）

協 賛

法友会

大阪教区の住職会
（会長：佐々木太一）



どなた様でもお参りいただけます

法要・法話会のご案内



大阪別院孟蘭盆会

8月13日(木) 午後2時
8月14日(金) 午後2時
8月15日(土) 午後2時

大阪別院彼岸会

9月19日(土) 午後2時
法話：玉出宗順 師
9月22日(火・祝) 午後2時
法話：佐々木太一 師
9月25日(金) 午後2時
法話：葦名 彰 師

本山佛光寺茶所布教

毎日午前7時半
※大阪教区布教使の担当は下記の通りです
7月6日(月)～10日(金)
法話：隅谷俊紀 師
7月11日(土)～15日(水)
法話：門川崇志 師
7月16日(木)～20日(月)
法話：葦名 彰 師

※新型コロナウイルス感染症の影響で中止となることがあります。直前にご確認ください。



編集秘話

大悲の編集会議もオンラインに。コロナによって私たちの日常は大きく様変わりしました。出来て当然、あって当たり前だと思っていたことがそうではなくなったのです。こんな時だからこそ逆に「当たり前」なことなど何もなく、物事が思うように順調に進んでいたことの「有り難さ」を教えられる今日この頃です。(門川)

編集後記

新型コロナウイルス感染症の影響で、『大悲』編集会議もオンラインで。会議場所の大阪別院へは、自坊から車で10分程なので、感覚的には普段とそんなに変わりありませんでした。一方、京都の本山に行くには電車で2時間弱。先日、本山の会議がオンラインになり、その便利さに感動しました……。勝手なもんですね。(隅谷)

大阪教区・別院だより『大悲』 第38号(夏号)

令和2年(2020年)7月1日発行 (発行部数2200部)

発行：大悲の会

事務所：佛光寺大阪別院内

〒558-0011 大阪市住吉区荻田6-11-24 電話 06-6691-1362

郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」

大悲ホームページ <http://daihi.org/>

大悲の会

長田 譲(会長)

隅谷俊紀(副会長)

寿栄松正頭(会計)

玉出宗順(会計)

門川崇志(監事)

佐々木太一

葦名 彰